

令和5年度 京都市立九条中学校
 学校評価アンケート 集計結果
 【後期・生徒】

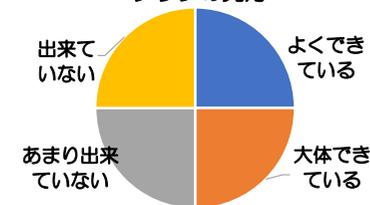


令和6年2月1日
 京都市立九条中学校
 校長 川島 浩明

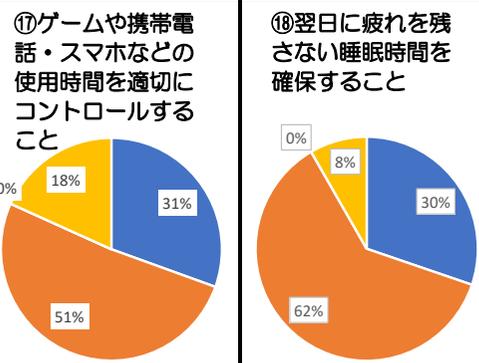
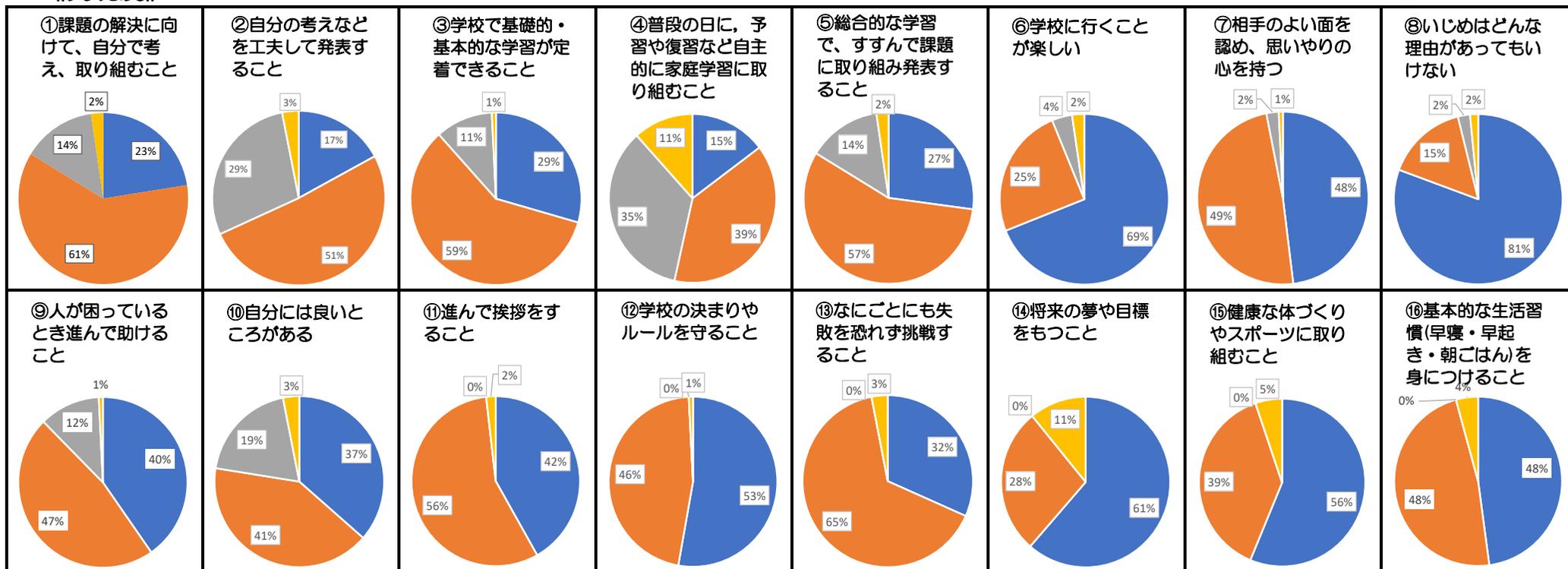
後期 学校評価を報告します

生徒の皆さん、令和5年度 後期学校評価アンケート (Forms) にご協力いただきありがとうございます。
 集計結果をご覧いただき、今後とも本校教育にご理解とご協力いただきますよう、お願いいたします。なお、本校の「学校目標・学校経営方針」に視点を置いて報告いたします。また、ホームページや学校運営協議会にも報告し、ご意見をいただきたく存じます。

グラフの見方



《実現度》



後期学校評価アンケート (生徒) 集計の結果から、①の『課題の解決に向けた姿勢』や、②の『自分の考えを工夫し発表』などの学びに向かう基本姿勢については概ね良好と言える。そして、それらが、③の『学校での基礎的・基本的な学習の定着』という成果に繋がっているものと考えられる。④の『普段、家庭での自主的な予習や復習』については、①～③の数値からはやや劣ることから、学びにおいて生徒たちは、学校(教師)への依存性が強い傾向が感じられる。今後、教科学習を軸とし、総合的な学習の時間等との横断的な学習を通じて、自分の進路や将来と関連付けた学びへの興味・関心を高めさせ、生徒の自ら学ぶ力を育みたい。

そこで、前述した⑤の『総合的な学習の時間』に着目すると、生徒たちの興味・関心度は高く、各学年のキャリア教育の課題についての調べ学習の成果を発表する『ポスターセッション』は、下級生が聴衆として参加する学年間の交流、小中交流といった側面もあり、生徒にとって大変やり甲斐ある行事として定着している。この結果を踏まえて、自ら学ぶ力の育成に向けてより一層注力したい。

また、⑥～⑫に見られる、多くの生徒が『学校が楽しい』『相手の良い面を認める・思いやる』『いじめは許されない』『困ってる人を助ける』などの他者との関わりを大切にし、『自分には良いところがある』『進んで挨拶をする』『学校のきまりを守る』などの自己肯定感を持つことも出来ている。最後に③～⑧にも表れているように、公共の精神、規範意識といった人間形成にとって大切な情緒面の醸成を大切に、生徒の自ら律する力を育む教育を実践し、学校教育目標の具現化を図りたい。